

王朝文学の楽しみ

尾崎 左永子 著

岩波書店（岩波新書）2011年

古典文学の研究者である著者は、この本について、次のように言っています。源氏物語、枕草子、伊勢物語など誰もが一度は、学校の「古文」などで触れたことがあると思いますが、その本当の面白さは、教科書に採用されていない部分にあるのですと。それでは、王朝文学を楽しむにはどのようにしたらよいのでしょうか。著者は、それは簡単、作品に登場する人物たちは皆、些細なことに喜んだり、腹を立てたり、嫉妬したりと今の私達と少しも変わりませんので、読者は、登場人物たちと気楽に交流すると良いのですと。ただし、背景が1000年前の日本社会だという違いを除けばと。

気楽な交流の場にするために、著者は、当時の社会状況や暮らしの背景などをわかり易く解説しながら、王朝文学の世界へと優しく誘ってくれます。名著だと思えます。

最後に、王朝文学を楽しむには、各作品ごとに現代作家による現代語訳が出ていますので、現代文学の一つとして気楽に読むことをお勧めします。

高橋 敬一（福岡女子短期大学教員）